

2014年度 重松みか 客員教授による 声楽特別講義

1. 日 時 : 2014年6月17日(火)13時30分～18時30分
2. 場 所 : C号館 401教室
3. 対象学生【必修】 : 院「オペラ研究AI・AII」、大学専攻科「オペラ研究」
大学「オペラ実習」 受講生 他聴講可(学内のみ)
4. 講 師 紹 介 : 重 松 み か 客員教授(メゾ・ソプラノ)

裏面参照

.....

.....

.....

5. 講 義 概 要

～ 公 開 レ ッ ス ン ～

3 限

岩本 真利 (大専)

Bellini 「La Sonnambula」 Ah! non credea mirarti

安井 裕子 (大専)

Donizetti 「La Favorita」 O mio Fernando

岡本 優香 (大専)

Bellini 「La Sonnambula」 Care compagne ～Come per me sereno

4 限

森 千夏 (大4)

Donizetti 「Anna Bolena」 Al dolce guidami castel natio

岡田 淳志 (大4)

Donizetti 「L' elisir d' amore」 Una furtiva lagrima

鈴木 麻里 (大4)

Bellini 「I Capuleti e i Montecchi」
Eccomi in lieta vesta ～Oh! quante volte, Oh! quante

5 限

谷口 耕平 (院1)

Donizetti 「Lucia di Lammermoor」
Tombe degli avi miei..Fra poco a me ricovero

南 さゆり (院1)

Rossini 「Guglielmo Tell」 Selva opaca

中野 文哉 (院1)

Rossini 「Il Barbiere di Siviglia」 Largo al factotum della citta

重松みか プロフィール

1988年、日伊声楽コンクールにおいてメゾ・ソプラノ初の第1位を受賞。翌年、文化庁派遣芸術家在外研修員としてニューヨークに渡る。研修終了後、1991年日本音楽コンクール第1位受賞。その後、サンフランシスコ・オペラ・センターを経て同歌劇場のフェローシップを獲得、2年の契約期間中、同劇場のオペラ、コンサートに数多く出演する。その間の1993年、ボストン・リリック・オペラにおいてベッリーニ《清教徒》(マリア・マリブラン版/アメリカ初演)のエルヴィーラ役でプリンシパル・デビューを果たし、国際的に注目を浴びる。

以後、サンフランシスコ・オペラ、ボストン・リリック・オペラ、カナディアン・オペラ (トロント)、ミネソタ・オペラでロッシーニ《セヴィリアの理髪師》のロジーナ役、また、サンフランシスコ・オペラやオペラ・コロラド (リチャード・ボニング指揮) でロッシーニ《シンデレラ》のタイトルロールを歌う。他、シアトル・オペラでのモーツァルト《フィガロの結婚》のケルビーノ役をはじめ、カーメル・バッハ・フェスティバル、テキサス・フォートワース・オペラ、オペラ・ノースキャロライナ、オーガスタ・オペラ、オペラ・モントリオール、サンタバーバラ・シンフォニーなど北米各地で活躍。ヨーロッパでは、リヨン国立歌劇場、ロンドン・ロイヤル・アルバートホールでプッチーニ《蝶々夫人》のスズキ役、パリ・オペラ座(バステューユ)でプッチーニ《マノン・レスコー》の音楽家役を歌い、アムステルダム・コンセルトヘボウではオランダ・VARAラジオのコンサート・オペラ・シリーズでベッリーニ《テンダのベアトリーチェ》のアニエーゼ役を歌いマリエッタ・デヴィーアらと共演。イタリアでもジェノヴァのカルロ・フェリーチェ歌劇場でマスネ《ウェルテル》(ダニエル・オーレン指揮)のシャルロット役をラモン・ヴァルガスと歌う。

<リサイタル活動・近年の主な活動>

リサイタル活動においても積極的で、リヨン・オペラのリサイタル・シリーズをはじめ、サンフランシスコ、ジュネーヴ、サンタ・バーバラ各地に招待され、ブライアン・アサワ、クリストフ・ルサーらとも共演している。帰国の折には、東京、大阪、京都など各地でリサイタルを開き、好評を博している。

近年の主な活動としては、ヴァーモント国際オペラ・フェスティバルのゲスト・アーティスト、オランダ放送管弦楽団のベッリーニ《カプレーティとモンテッキ》(演奏会形式)のロメオ役、フランスのオペラ・モンペリエ工《蝶々夫人》、ニューヨークのエイヴリー・フィッシャー・ホールでのナショナル・コワイアー・シンフォニーのソリスト、ニューヨーク・シティ・オペラへのデビュー《蝶々夫人》、《フラヴィオ》、サンディエゴ・オペラ《蝶々夫人》への出演などがあげられる。

日本でも近年、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団など有数の楽団からソリストとして迎えられ、シャルル・デュトワ、ゲルト・アルブレヒト、クルト・マズアら海外からの招聘指揮者との共演も多い。

現在、ニューヨーク在住。国際的な歌劇場やステージにおいて常に高い評価を得て、各方面から注目されている。